

製品名: CD110 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08191**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	69,40kDa

抗原情報

遺伝子名	MPL
別名	MPL; TPOR; Thrombopoietin receptor; TPO-R; Myeloproliferative leukemia protein; Proto-oncogene c-Mpl; CD110
遺伝子 ID	4352.0
SwissProt ID	P40238
免疫原	トロンボポエチン受容体由来の合成ペプチド（アミノ酸範囲: 321-370）

背景

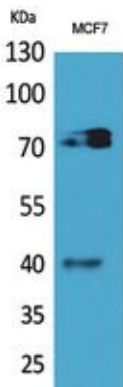
1990年、マウス骨髄増殖性白血病ウイルスから、様々な系統の骨髄造血細胞を不死化できるがん遺伝子 v-mpl が同定されました。

た。1992年には、ヒトホモログである c-mpl がクローニングされました。配列データから、c-mpl が造血受容体スーパーファミリーのメンバーと相同性のあるタンパク質をコードすることが明らかになりました。c-mpl のアンチセンスオリゴデオキシヌクレオチドの存在は、巨核球コロニー形成を阻害しました。c-mpl のリガンドであるトロンボポエチンは 1994 年にクローニングされました。トロンボポエチンは、巨核球造血および血小板形成の主要な調節因子であることが示されました。c-mpl 遺伝子によってコードされるタンパク質 CD110 は、635 アミノ酸の膜貫通ドメインで、2 つの細胞外サイトカイン受容体ドメインと 2 つの細胞内サイトカイン受容体ボックスモチーフを持っています。TPO-R 欠損マウスは重度の血小板減少症を示し、重要な注意:Met-1 と Met-8 のどちらがイニシエーターであるかは不明です。疾患:MPL の欠陥は、先天性無巨核球性血小板減少症 (CAMT) [MIM:604498] の原因です。CAMT は、身体的異常を伴わずに孤立性の血小板減少症と巨核球減少症を特徴とする疾患です。ドメイン:ボックス 1 モチーフは、JAK の相互作用や活性化に必要です。ドメイン:WSXWS モチーフは、適切なタンパク質の折り畳み、ひいては効率的な細胞内輸送と細胞表面受容体の結合に必要と思われます。機能:トロンボポエチンの受容体。TPO-R 依存性免疫応答に特異的な調節分子である可能性がある。類似性: I 型サイトカイン受容体ファミリーに属する。タイプ 1 サブファミリー。類似性: 2 つのフィブロネクチン III 型ドメインを含む。サブユニット: ATXN2L と相互作用する。組織特異性: 造血系由来の多くの細胞で低レベルで発現している。アイソフォーム 1 とアイソフォーム 2 は常に共発現している。

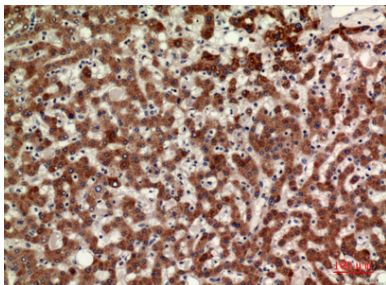
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;Jak_STAT;

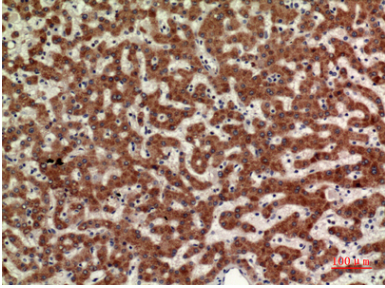
画像データ



CD110 ポリクローナル抗体を用いた MCF7 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された